

## ふるさとの地で、伝統を絶やさない

春山窯（大堀相馬焼協同組合 理事長） 小野田利治さん

### ■現在の活動：本宮市を拠点に活動

大堀相馬焼※の窯元として、作陶活動・陶芸教室を行っています。仮工房での制作を経て、現在は本宮市に自宅兼拠点を構えています。

また、平成27年からは大堀相馬焼協同組合の理事長として、再開した9つの窯元と連携しながら、震災前から続く「大せとまつり」や「新作展」などのイベントを行っています。

※大堀相馬焼（おおぼりそうまやき）：福島県浜通り北部の浪江町大堀地区で作られる陶器。青ひび、走り駒、二重焼が特徴。300年以上続くといわれる伝統工芸品。



震災当時のことも振り返ってお話いただく小野田さん



「春山窯」の看板と、大堀相馬焼の大皿

### ■活動の経緯：「先生、また陶芸教室やって」

大堀相馬焼の「春山窯」の13代目として浪江町で生まれ育ち、伝統の中で生かされてきました。震災・原発事故によって着の身着のまま避難をし、5～6か所を転々と避難生活を送っていました。

震災から1年3カ月後、かつての陶芸教室の生徒から「先生、また陶芸教室・作陶活動をやらないか」と連絡をもらい、代々続いてきた伝統をここで絶やすわけにはいかないと、いわき市の仮設工房で活動を再開しました。仮設住宅や交流サロンで陶芸教室も続けながら、2017年には現在の拠点で新工房を立ち上げ、新たなスタートを切りました。

## ■ 活動を通じての思い：細く、長くでいいから

特徴である青磁色の釉薬は、地元のものが使えないため、7種類を混ぜて風合いを再現しています。やむなく廃業した窯元も多くある中で、再開した窯元は覚悟があつてのことだと思えます。「春山窯」も組合も、300年続いてきた伝統を絶やさないように、細く・長くでも活動を継続したいと思えます。

自分自身も新しい拠点でスタートしたばかりなので、子供たちに継いでほしいとは言えません。ただ、自分自身も父の背中を見ながら育ったので、家族にもそれなりの背中を見せたいと思えます。



作品をご紹介いただく小野田さん



小野田さんの手がけられた作品の数々

## ■ 今後の展開：故郷で、全国に知られる活動を

新天地で活動をしていますが、いつかは生まれ育った浪江町を拠点に活動をしたいと思っています。2020年を目標に浪江町内で道の駅が計画されているため、協同組合の拠点「陶芸の杜おおぼり」を町内で再開したいと思っています。

組合で再開した窯は9か所。現在は自分たちの活動で精一杯ですが、全国の窯元と交流することで各々窯元の良さを生かし、大堀相馬焼のブランド価値を高めていきたいです。そして、大堀相馬焼自体を全国に広めることで、福島歴史やこの場所を忘れないようにしてもらえたらと思います。